

6.3 生態系の人為的な攪乱状況 (国外外来種の確認状況)

近年、貨物や農作物に紛れ込んだ種や輸入ペット昆虫などが野外へ逃亡あるいは放逐されることにより、外来生物に代表されるように、本来の生息地域以外での分布拡散が顕著に認められるようになりました。このような人の活動に伴う生物の移動と再野生化により、生態的に優勢な国外外来種によって在来の種の減少や絶滅が起こっています。また、外国産クワガタムシなどの例のように、自然界では起こらない異種間交雑によって雑種が形成され、地域固有な遺伝子の攪乱が懸念されています。

ここでは、生態系の人為的な攪乱状況を明らかにするために、国外外来種や、それらと生態的に競合する在来種の確認状況について整理しました。

【アオマツムシ、アワダチソウゲンバイ、ホソオチョウ、シバツトガ、アメリカミズアブ、ミスジキイロテントウ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシ、アメリカジガバチ、セイヨウオオマルハナバチの確認状況】 (陸上昆虫類等調査)

● 要注意外来生物であるホソオチョウを中部地方の4河川で確認

国外外来種の定着状況について見るため、アオマツムシ、アワダチソウゲンバイ、ホソオチョウ、シバツトガ、アメリカミズアブ、ミスジキイロテントウ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシ、アメリカジガバチ、セイヨウオオマルハナバチの12種を取り上げました。

ホソオチョウは、今回とりまとめを行った15河川のうち、中部地方庄内川及び木曽川水系木曽川、長良川、揖斐川の計4河川で確認されました。前回調査でも、揖斐川で確認されており、中部地方の木曽川水系周辺では定着している可能性が考えられます。

その他アメリカミズアブやラミーカミキリなど古くから侵入が知られている国外外来種については、確認河川数はほぼ横這いで、比較的多くの河川から記録されています。

(資料掲載: 6-26 ~ 6-37、6-54 ~ 6-55 ページ)

中国大陸原産のアオマツムシは、1898年に東京で見つかった以来、各地に広がっており、秋の夜に植木や街路樹の上からリーリーリーと鳴く声が聞こえます。調査結果からは、近年も拡大を続けている様子がうかがえます。

アワダチソウゲンバイは中南米原産で、1999年に兵庫県で発見されて以来、関西地方を中心にキク、ヒマワリ、サツマイモなどの作物やセイトカアワダチソウなどのキク科雑草から確認されています。今後は河川敷や農地を中心に分布域を拡大する可能性が考えられます。

ホソオチョウはアジア大陸東部原産で、1978年に東京都で初めて確認され、その後山梨県上野原市や大月市などで多数発生しました。近年、東北地方南部、関東地方一帯、中部地方の岐阜県、近畿地方の滋賀県、京都府、大阪府、九州地方の大分県などから報告されています。本種と同じウマノスズクサを食草とする、在来種のジャコウアゲハとの生態的な競合が懸念され、外来生物法による要注意外来生物に指定されています。ウマノスズクサは河川敷でよく見られることから、今後は河川を中心に分布を拡大する可能性が考えられます。

シバツトガは北米原産で、1964年に兵庫県のゴルフ場で芝の輸入とともに侵入したとされ、以後各地のゴルフ場などへ急速に広がっています。今回の調査結果からは、河川でも定着してきている様子がうかがえます。

確認河川数・地区数の比較 (対象河川: 15 河川)

種 類	1 巡目 (78 地区)	2 巡目 (101 地区)	3 巡目 (104 地区)	4 巡目 (99 地区)	特定外来 生物等
アオマツムシ	4 河川 4 地区 〔5.1〕	9 河川 24 地区 〔23.8〕	10 河川 34 地区 〔32.7〕	12 河川 50 地区 〔50.5〕	
アワダチソウゲンバイ	0 河川 0 地区 〔0〕	0 河川 0 地区 〔0〕	0 河川 0 地区 〔0〕	9 河川 65 地区 〔65.7〕	
ホソオチョウ	0 河川 0 地区 〔0〕	0 河川 0 地区 〔0〕	1 河川 2 地区 〔1.9〕	4 河川 6 地区 〔6.0〕	要注意 (注意喚起)
シバツトガ	5 河川 9 地区 〔11.5〕	11 河川 36 地区 〔35.6〕	8 河川 40 地区 〔38.5〕	11 河川 31 地区 〔31.3〕	
アメリカミズアブ	9 河川 21 地区 〔26.9〕	12 河川 25 地区 〔24.8〕	10 河川 27 地区 〔26.0〕	12 河川 34 地区 〔34.3〕	
ミスジキイロテントウ	0 河川 0 地区 〔0〕	3 河川 3 地区 〔3.0〕	4 河川 10 地区 〔9.6〕	8 河川 11 地区 〔11.1〕	
ラミーカミキリ	4 河川 6 地区 〔7.7〕	6 河川 15 地区 〔14.9〕	5 河川 11 地区 〔10.6〕	7 河川 17 地区 〔17.2〕	
ブタクサハムシ	0 河川 0 地区 〔0〕	0 河川 0 地区 〔0〕	9 河川 31 地区 〔29.8〕	13 河川 38 地区 〔38.4〕	
イネミズゾウムシ	8 河川 37 地区 〔47.4〕	10 河川 45 地区 〔44.6〕	11 河川 25 地区 〔24.0〕	9 河川 25 地区 〔25.3〕	
シバオサゾウムシ	0 河川 0 地区 〔0〕	0 河川 0 地区 〔0〕	2 河川 3 地区 〔2.9〕	6 河川 9 地区 〔9.1〕	
アメリカジガバチ	6 河川 7 地区 〔9.0〕	8 河川 14 地区 〔13.9〕	8 河川 17 地区 〔16.3〕	5 河川 10 地区 〔10.1〕	
セイヨウオオマルハナバチ	0 河川 0 地区 〔0〕	0 河川 0 地区 〔0〕	1 河川 1 地区 〔1.0〕	0 河川 0 地区 〔0〕	特定

()内の数字は、各巡目で対象とした調査地区

[]内の数字は確認地区数の調査対象地区数に対する%

(注)特定外来生物等

特定：外来生物法により特定外来生物に指定されている外来生物

要注意(注意喚起)：要注意外来生物リスト掲載種のうち、選定の対象とならないが注意喚起が必要な外来生物。

アメリカミズアブは、体長 1~2cm の北米原産の種で、1950 年頃東京で初めて発見されて以降、近年では夏から秋にかけて、各地で普通に見られるようになりました。市街地から山地まで普通に生息し、畑の脇に捨てられた野菜のくずや生ゴミなどにもよく発生します。

ミスジキイロテントウは、国内では 1985 年に沖縄本島で発見されたのが最初で、それ以降、本州などでも見つかっています。東南アジアから芝により持ち込まれたと言われています。

ラミーカミキリは、明治初期に中国大陸から輸入された麻植物について移入したと考えられており、成虫はラミー、カラムシ、ムクゲなどの葉や茎を食べます。

ブタクサハムシは北米産の種ですが、1996 年に千葉県で発見されて以降、ほぼ全国で確認されています。同じく国外外来種であるブタクサやオオブタクサを食草としており、これらの植物の分布拡大とともに、分布を拡大していく傾向がうかがえます。

イネミズゾウムシは北米原産で、1975 年に愛知県で発見されて以降、1986 年には日本全国に分布が広がったと言われています。イネの害虫として知られていますが、イネ以外にもイヌビエ、ムツオレグサ、チゴザサ、マコモ、サヤヌカグサ、ホタルイ、オモダカなどを食草としています。今回の調査結果からは、本種が水田の害虫としてだけでなく、日本の河川環境にも定着していることがうかがえます。

シバオサゾウムシは北米原産で、芝の害虫として知られ、ゴルフ場などを通じて各地に広がっています。今回の調査では、6 河川で確認されました。

アメリカジガバチは北米原産で、1945 年頃東京で初めて発見されました。泥で筒状の巣を造り、クモ類を狩ります。今回の調査では、5 河川から確認されています。

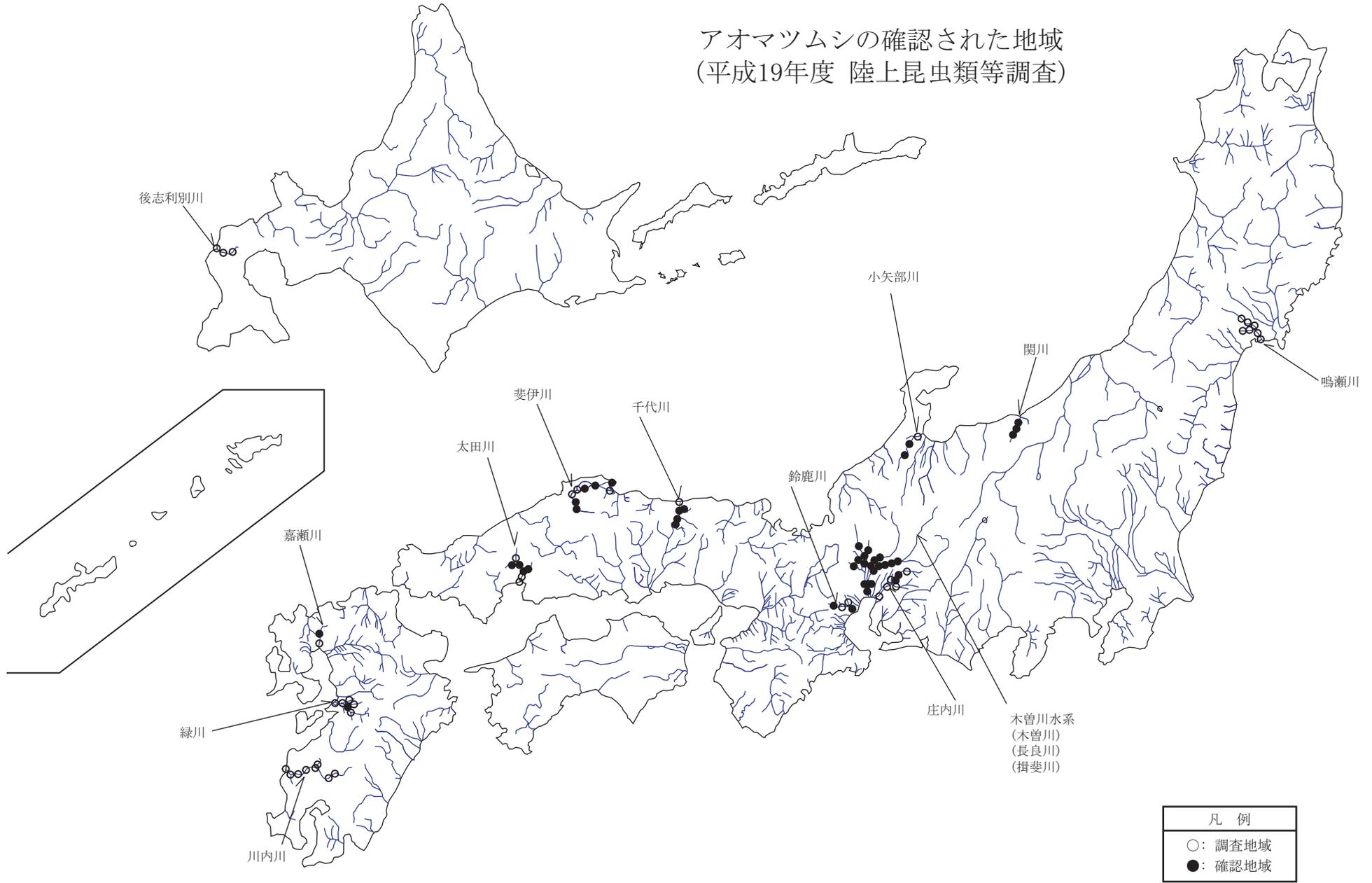
セイヨウオオマルハナバチは、ヨーロッパ原産のハチ目ミツバチ科に属する種で、体長 10~20mm ほどの昆虫です。本種は、在来マルハナバチとの餌や営巣場所をめぐる競合や、頻繁な盗蜜行動による野生植物の種子生産の阻害などにより、生態系に被害を及ぼすおそれがあることから、特定外来生物に指定されました。

以上の多くの外来昆虫で、確認河川数及び確認地区数は増加あるいは安定傾向がみられ、河川環境のなかで確実に定着している種が多いと考えられます。

特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律』(2005 年 6 月 1 日)により、生態系、人の生命・身体及び農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定された海外起源の外来生物です。特定外来生物は、飼養、栽培、保管、運搬、輸入といった取扱いを規制され、防除等の対象となっています。

アオマツムシの確認された地域
(平成19年度 陸上昆虫類等調査)

6-26

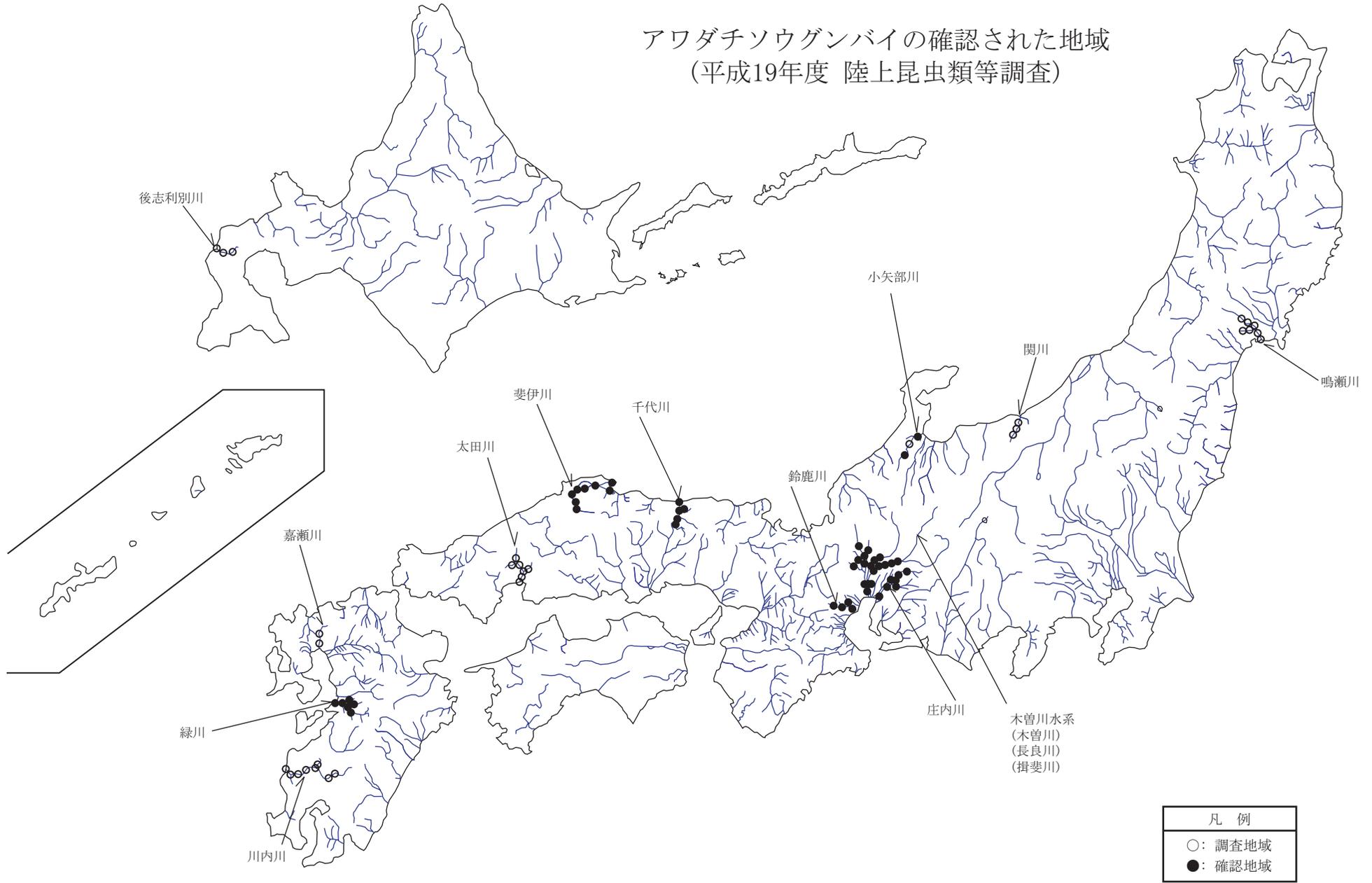


凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

アワダチソウゲンバイの確認された地域
(平成19年度 陸上昆虫類等調査)

6-27

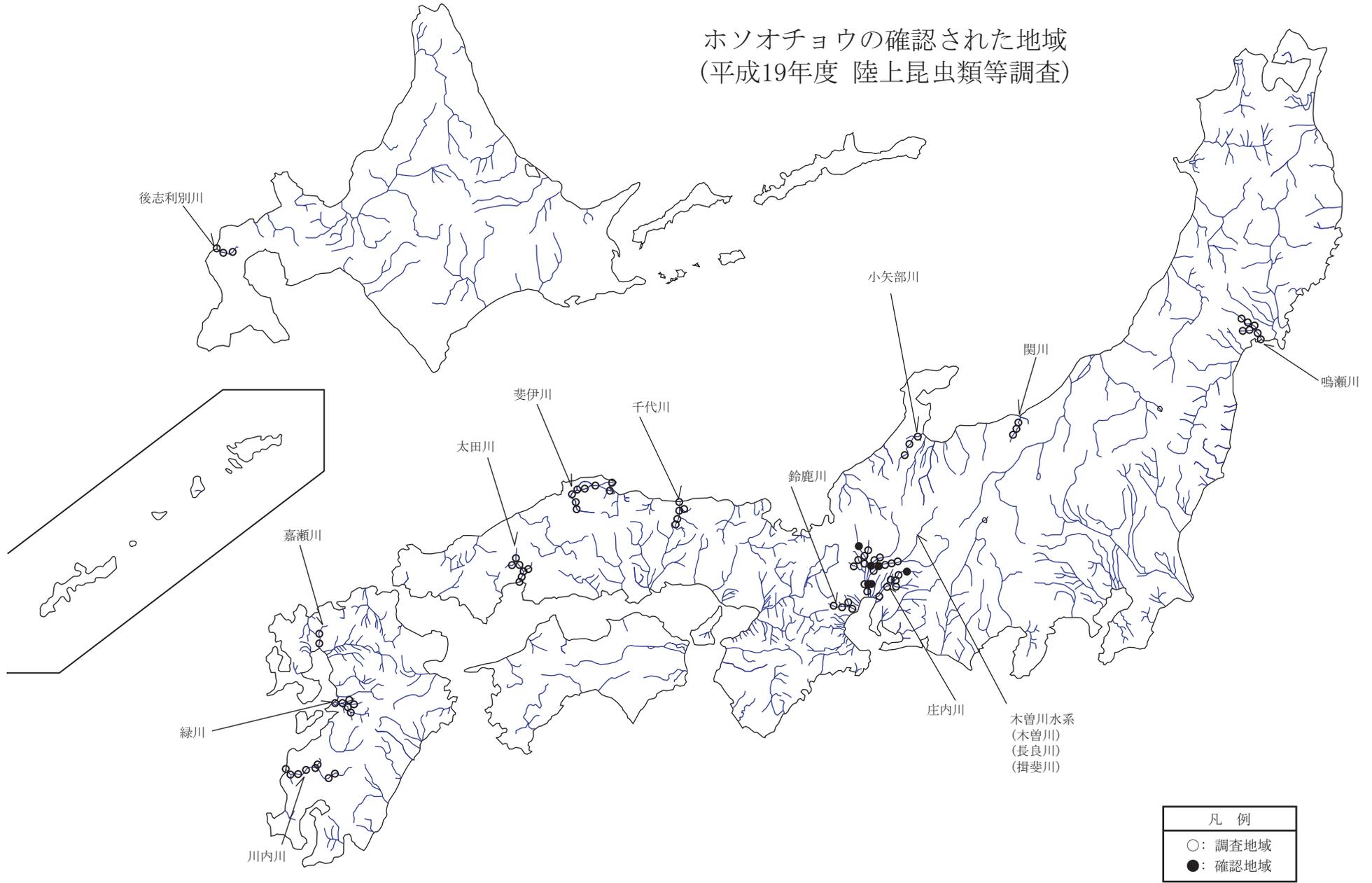


凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

ホソオチョウの確認された地域
(平成19年度 陸上昆虫類等調査)

6-28

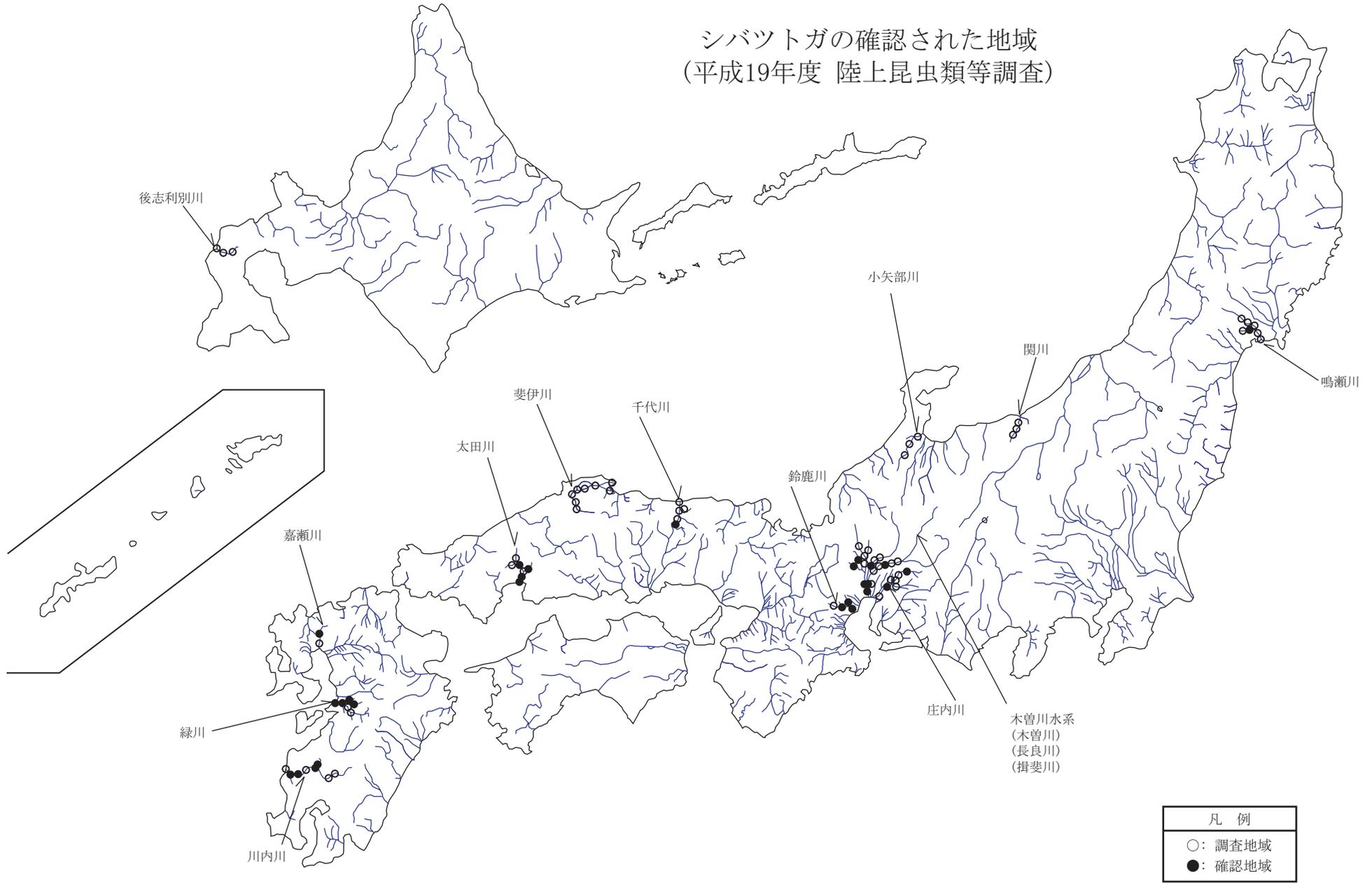


凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

シバツトガの確認された地域
(平成19年度 陸上昆虫類等調査)

6-29

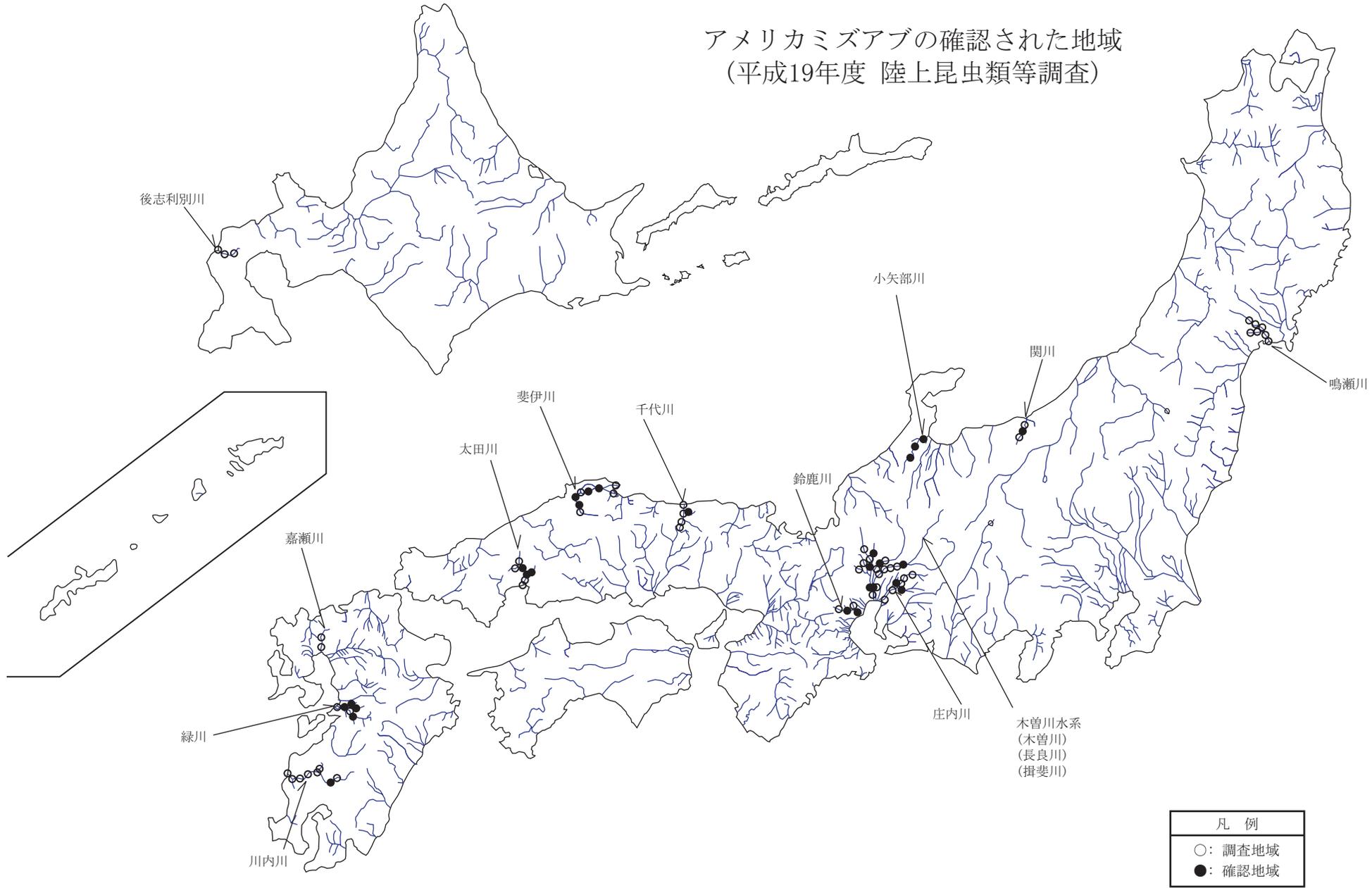


凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

アメリカミズアブの確認された地域 (平成19年度 陸上昆虫類等調査)

6-30

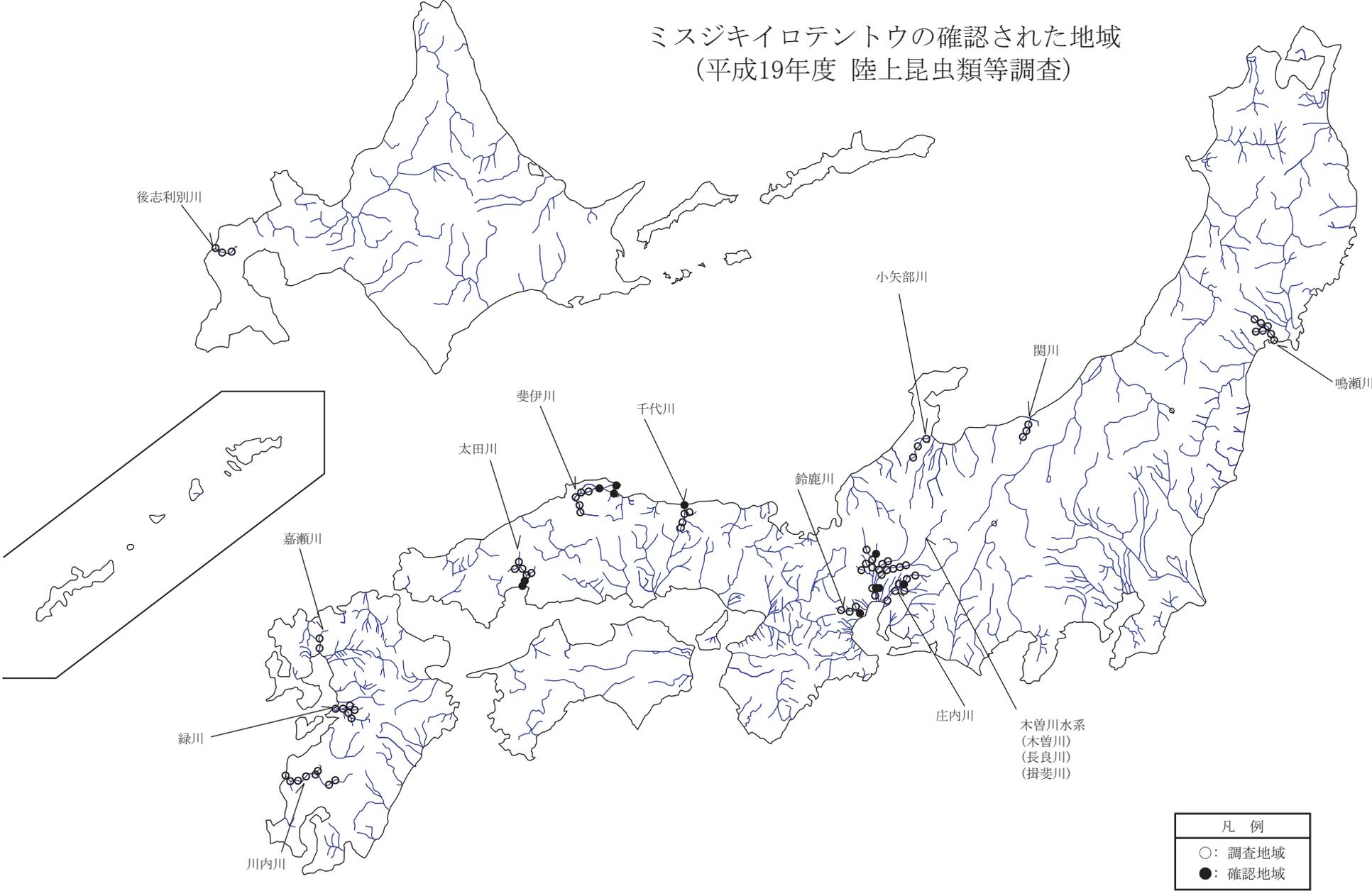


凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

ミスジキイロテントウの確認された地域
(平成19年度 陸上昆虫類等調査)

6-31

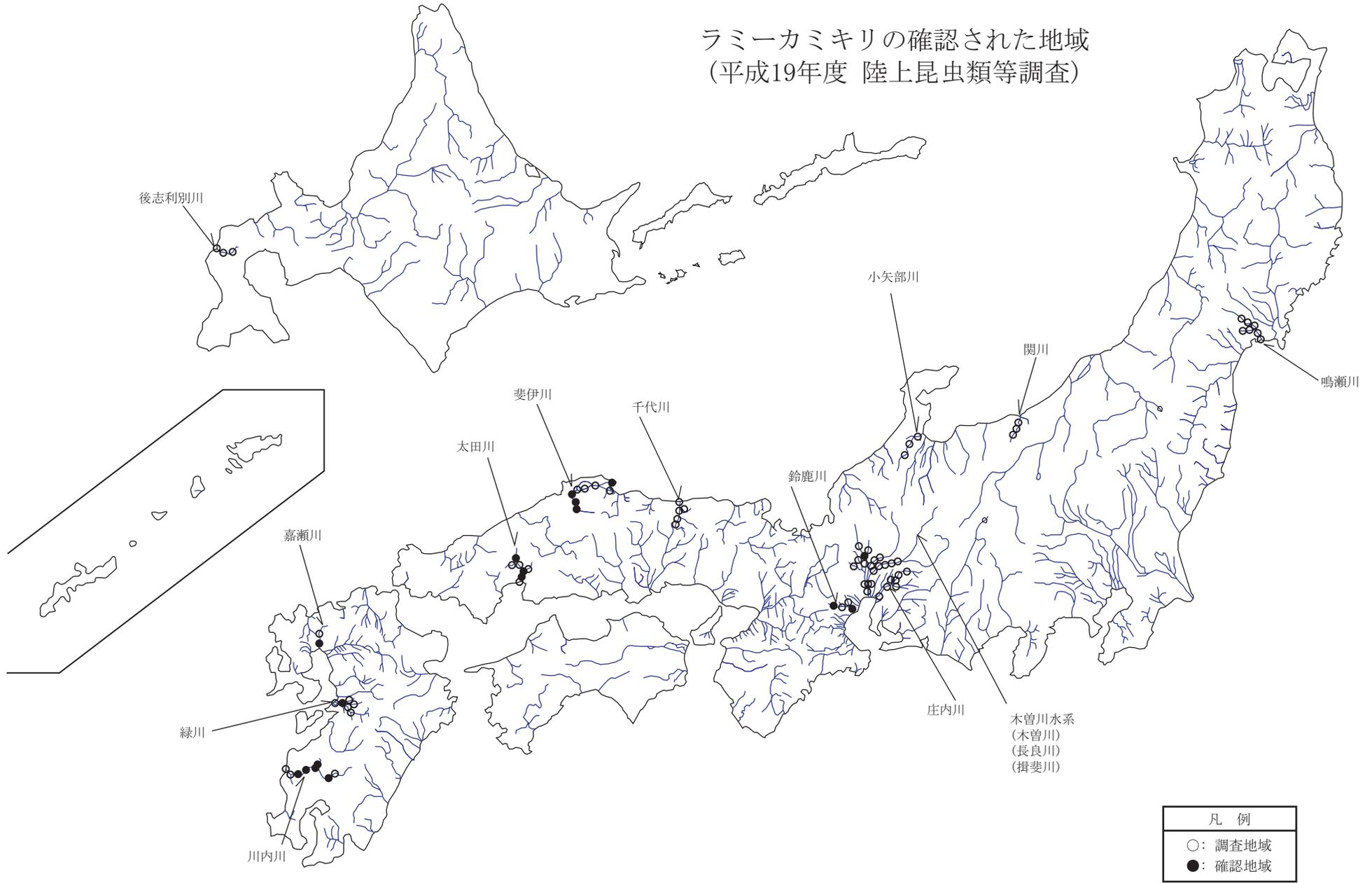


凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

ラミーカミキリの確認された地域
(平成19年度 陸上昆虫類等調査)

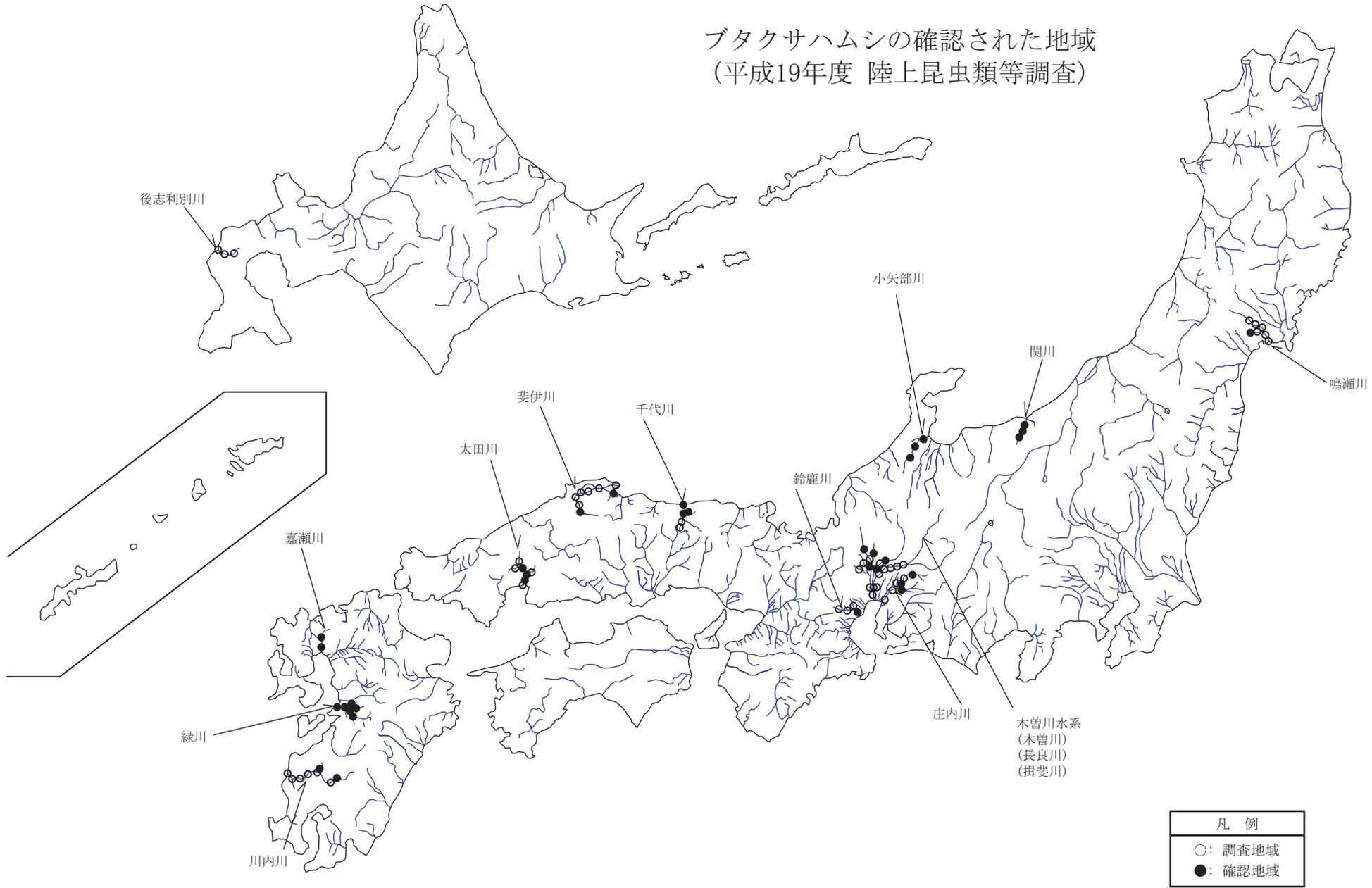
6-32



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

ブタクサハムシの確認された地域
(平成19年度 陸上昆虫類等調査)

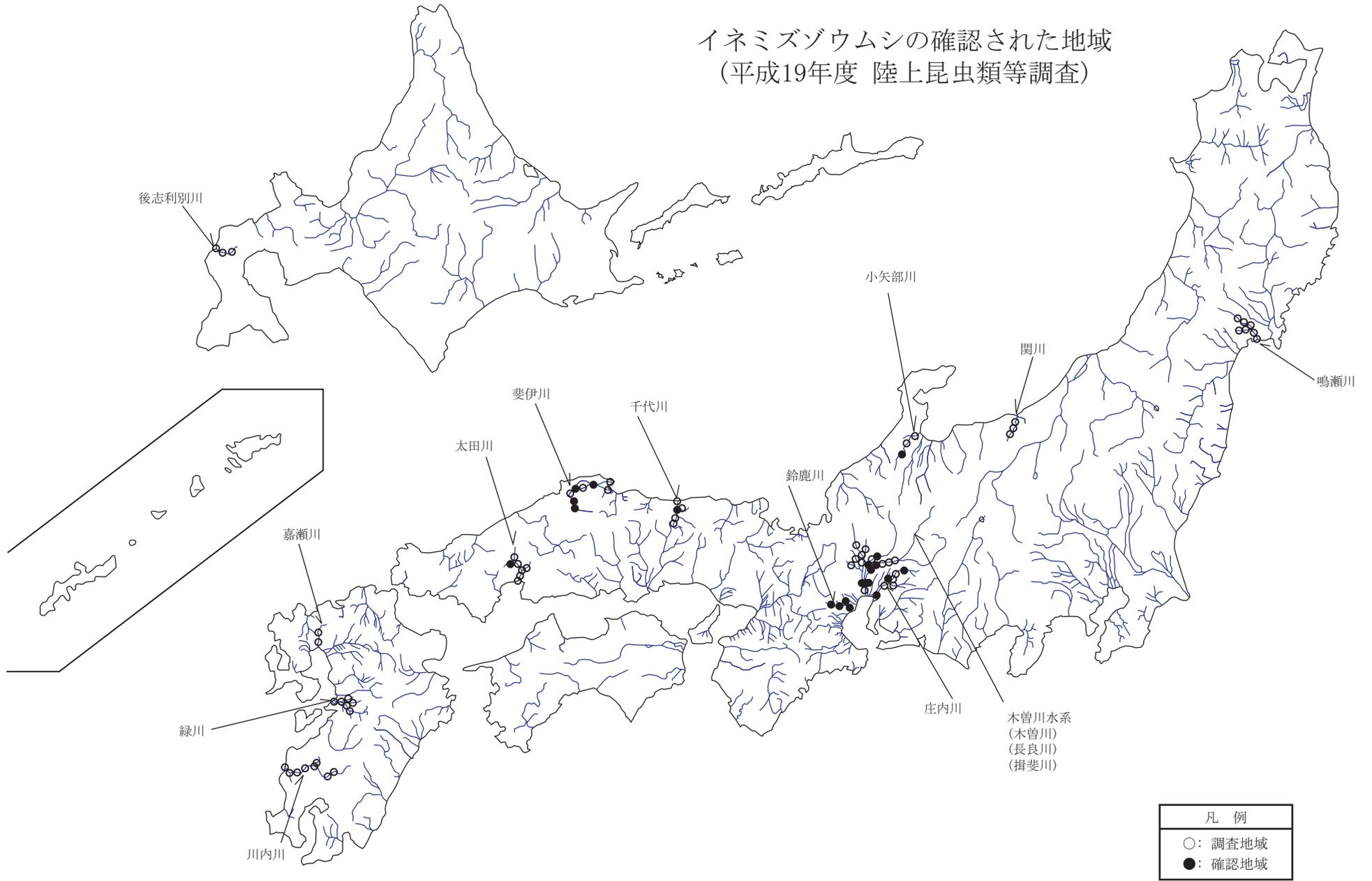
6-33



凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

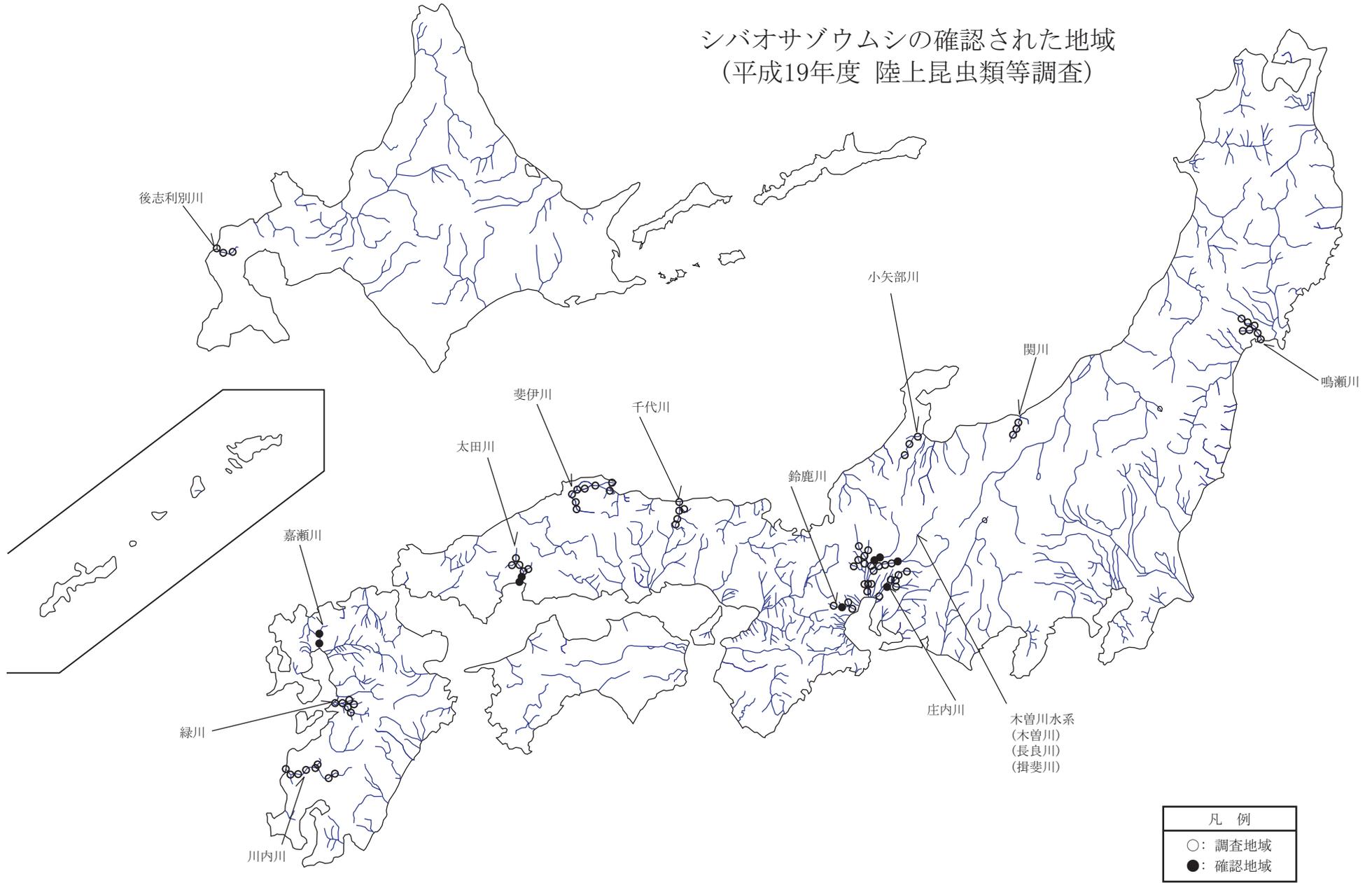
イネミズゾウムシの確認された地域 (平成19年度 陸上昆虫類等調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

シバオサゾウムシの確認された地域
(平成19年度 陸上昆虫類等調査)

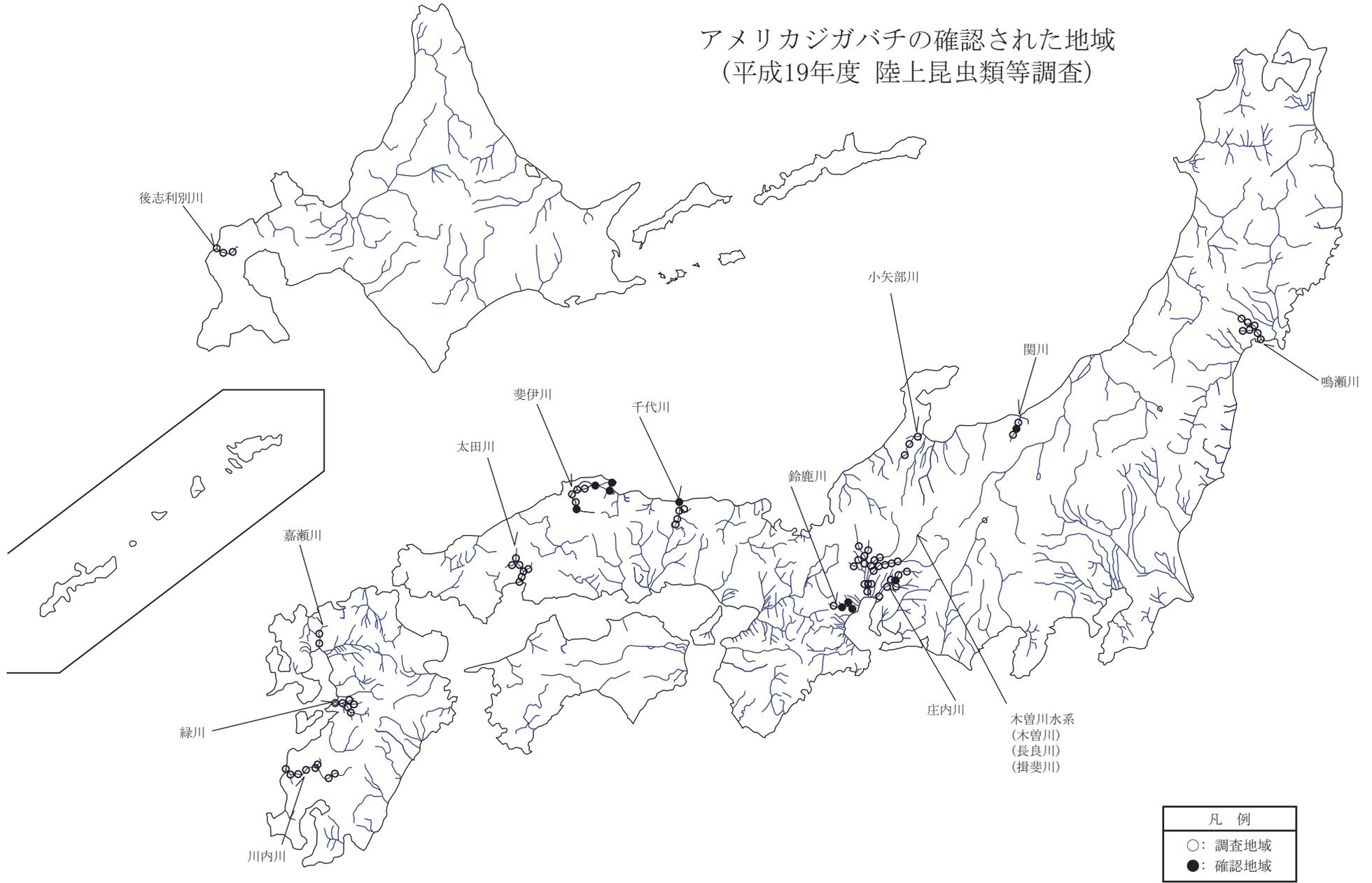
6-35



凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

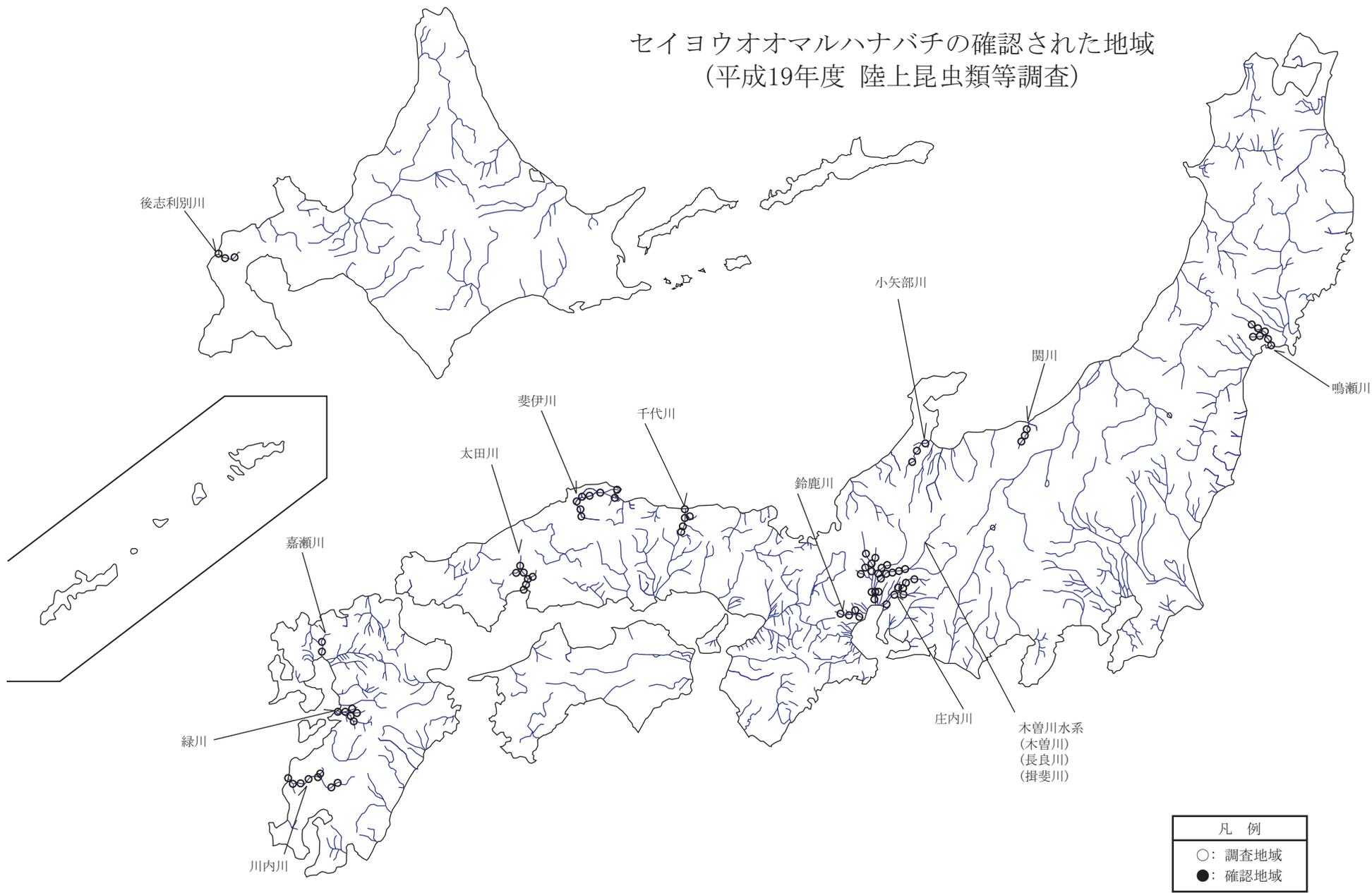
アメリカジガバチの確認された地域
(平成19年度 陸上昆虫類等調査)



凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

セイヨウオオマルハナバチの確認された地域 (平成19年度 陸上昆虫類等調査)



凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。